

LS656の迷光

- 強い輝線があるデータでは
迷光が現れることがあるため
解析時に注意が必要。
- 迷光の強度は輝線の0.01%以下。
- 右図では輝線10～15万カウント
(飽和しているため実際のカウントは不明)
に対して迷光2～5カウント。
- 迷光になり得る波長域は539～802nm。
それ以外の波長は、フィルターによって
0.1%以下に光量が抑えられている。
- また、飽和しているデータでは、
グリズムの種類に関わらず
クロストーク (信号の干渉) が現れる。
右図の例では-20カウントの
吸収線状のパターンが2ヶ所に現れている。

